

令和5年度
(2023年度)

事業計画書



学校法人巨樹の会

目 次

1. 学校法人の概要	1 ~ 2
2. 基本方針	3
3. 教育方針	4
4. 教育計画	5 ~ 6
5. 設置する学校・学科等	7
6. 各校の事業計画	8
令和健康科学大学	9
福岡看護専門学校	10
小倉リハビリテーション学院	11
下関看護リハビリテーション学校	12
八千代リハビリテーション学院	13
福岡和白リハビリテーション学院	14
福岡水巻看護助産学校	15
武雄看護リハビリテーション学校	16

1.学校法人の概要

基本理念

手には**技術**、頭には**知識**、患者様には**愛**を

創設者の蒲池眞澄は、「患者のために医療を行う」という強い思いで、昼夜を問わず救急医療に励んできました。その中で医師のパートナーである看護師の教育を行いたいという熱い思いから看護学校を設立しました。また、患者様の生命を救った後の、日常生活動作の回復を考え、リハビリテーションを重視し、理学療法士、作業療法士の育成のためリハビリテーション学院を開校しました。さらに昨今の多様化する医療に応えうる人材を育成すべく、令和4年4月に看護学部、リハビリテーション学部を備えた「令和健康科学大学」を開学し、助産師教育を含む姉妹校専修学校7校とともに、新たな歴史を刻んでおります。

建学の精神

創設者の信念である「手には技術、頭には知識、患者様には愛を」を基本理念とし、医療のスペシャリストになりたいという学生の夢の実現のために「人間愛・自己実現」を教育理念として掲げ、人間性豊かで、社会に貢献できる実践能力を身につけた医療の専門職業教育を目指しています。

教育理念

人間愛・自己実現

学校法人巨樹の会の教育理念は「人間愛と自己実現」という人間の根本精神をあげ、一人ひとりの学生が人間愛の精神に基づき、対象を深く理解し、受け入れ、専門的な知識、技術、態度を身につけることができるような人材育成を目指しています。さらに、医療看護分野の専門性の追求のみならず、一生を通じて人格向上の努力を続け、自己実現していけるような人を育てています。

教育にかける情熱

学校法人巨樹の会は、創設者である蒲池真澄の「医師のパートナーである看護師の教育を行いたい」という熱い思いから始まりました。さらに、本法人は急速な少子高齢者社会の進展や疾病構造の変化により、在宅分野や予防分野など、リハビリテーションの需要がさらに増大してくる事を鑑み、その中核を担うセラピストの育成にも力を入れています。

知識は、学習の習慣と方法を修得できれば身につけることができます。しかし、医療従事者になりたいという思いは、他者から指導されて身につくものではありません。本当に医療従事者になりたいという思いをもった受験生にきてほしい、これが本法人の創設者の願いです。

本法人では、「人間愛と自己実現」という教育理念のもとで、基礎教育と臨床研修との一貫教育を中核に掲げ、患者様のために実践できる能力を身につけ、社会に貢献できる有能な人材の教育を行っています。

現在、本法人の専門学校7校の卒業生は16,000人を超え、看護師・助産師・理学療法士・作業療法士として、全国の医療の第一線で活躍しています。

〔 沿革 〕

平成 2年 4月	学校法人 福岡保健学院 福岡看護専門学校(3年課程)開校
平成 4年 4月	福岡看護専門学校2年課程(夜間定時制)開設
平成16年 4月	小倉リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 下関リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 八千代リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 福岡看護専門学校2年課程(通信制)開設
平成19年 4月	福岡和白リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校
平成20年 4月	福岡看護専門学校水巻校(3年課程)開校
平成22年 4月	下関リハビリテーション学院に看護学科を開設 名称変更:下関看護リハビリテーション学校へ
平成22年 9月	みずまき助産院ひだまりの家を開院
平成23年 4月	武雄看護リハビリテーション学校(看護学科・理学療法学科)開校 福岡看護専門学校水巻校に助産学科を開設 名称変更:福岡水巻看護助産学校へ
令和 2年 4月	学校法人名を「学校法人巨樹の会」へ変更
令和 4年 4月	令和健康科学大学 開学 看護学部 ・看護学科 リハビリテーション学部 ・理学療法学科 ・作業療法学科

2. 基本方針

令和5年度 学校法人巨樹の会 基本方針

I. 学校法人の更なるガバナンス機能の強化

1. 業務の適正を確保するための内部統制システムの実施
2. 中長期計画を策定し事業計画と連動したPCDAサイクルの展開
3. 令和健康科学大学大学院看護学研究科(仮称)設置申請に向けた取り組み

II. 継続事業

1. 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進
2. 学生満足度向上に向けた取り組み
3. ICT環境の運用
4. 退学者抑制の取り組み（進級率・卒業率90%以上の実現）
5. 国家試験合格率100%実現に向けた取り組み
6. 定員充足への取り組み
7. 地域連携の充実にむけた社会貢献の推進
8. 業務効率化の促進

III. その他

1. 働きやすい職場環境づくりの取り組み
 - 1)メンタルヘルスケア体制を充実させ、教職員に対する心のケアの充実及び健康管理を推進
 - 2)ハラスメントを防止し快適な職場づくりを実現
 - 3)年次有給休暇の取得促進のための取り組みを実施する
2. 関連グループのスケールメリットを生かした学校運営の展開
 - 1)各校が持つ様々な情報を共有し、ノウハウを生かした活動を展開
 - 2)経費削減と効率化の実現

3. 教育方針

令和5年度 学校法人巨樹の会 教育方針

1. 科学的な根拠に基づく実践力を身につけた医療従事者の養成を行う

- 1) 基礎教育と臨床研修との一貫教育の徹底
 - (1) 実践能力の強化に向けてた教育体制作り
 - (2) 一人ひとりを大切にた教育体制(90%以上の進級・卒業率を目指す)
 - (3) 専門職連携を踏まえた教育の強化
- 2) 国家試験資格取得にむけての確実な指導体制(100%合格を目指す)
- 3) 関連施設への就職(昨年度以上の就職率を目指す)

2. 次世代教育に向けて、実践力のある教員の教師力、事務の実務能力を育成する

- 1) 教育の効率、主体的学習意欲を高めるICT機器活用ができる能力の育成
- 2) 専任教員の教育実践における質向上への取組み
専任教員養成講習会(NS)・養成施設教員等講習会(PT・OT)への参加促進
- 3) 大学におけるFD・SDの充実とその活用を促進する
- 4) 学内・学外における研修制度の活用
- 5) キャリア向上のための修士・博士課程の大学院進学への推進

3. 令和健康科学大学開学後のスムーズな教育への導入と教育実践・評価を行う。

- 1) 各学部の教育活動について、三つの方針に則り、教育の質の保証と向上を図る。
学位授与の方針(DP) 教育課程編成・実施の方針(CP) 入学者受入れの方針(AP)
- 2) 教育の質向上を継続的に図るため、内部質保証システムの運用と教育の見直しを行う。

4. 大学及び専門学校将来構想に向けて、大学院設置準備と法人としての方針を出す。

- 1) 大学院開設のために、準備室を配置し申請準備に取り組む
- 2) 専門学校、大学の入試状況の変化を捉えて、10年後の方針を考える

5. 福岡看護専門学校、福岡和白リハビリテーション学院2校の閉校準備と閉校記念式典を行う。

- 1) 閉校する専門学校の在校生の教育、閉校準備を教職員全員で支援する
- 2) 歴史ある専門学校の閉校にむけて、記念式典を計画し、その伝統を引き継ぐセレモニーとする。

4. 教育計画

I. 教育の強化

1. 自ら状況判断できる看護師、助産師、理学療法士、作業療法士を育成するために、「主体的に学ぶ」という姿勢を育む教育を実践する。

- 1) 知識注入型の教育ではなく、思考する教育方法を取り入れた講義、演習、実習に取り組んでいく。
- 2) 様々な学生指導において、指示待ちではなく自分で考えさせる指導方法を実践する。
- 3) 学生のやりたいという思い(モチベーション)を大切にした教育を工夫する。
- 4) 自分にも出来るというような達成感を感じられる教育方法、学生を認める関わりを実践する。

2. ICT教育を全面的に取り入れた授業運営を通して、カリキュラム評価を行い、カリキュラムを運営する。

- 1) ICT教育の徹底を図り、教育効果を高める教育方法の向上を目指し運営する。
- 2) カリキュラムの運営を通して、講義・演習・実習における評価を検討し、教育内容・方法・技術の強化を行い運営する。

II. 学生支援について

1. 学生支援体制を整える。

- 1) 学生の主体性を尊重した教育的な関わりをもち、学生の支援体制をつくる。
- 2) 教員自ら積極的に挨拶を行い、学生との関わりを機会をふやし自ら学生のモデルとなる。
- 3) 学校カウンセラー・健康担当医と連携して、学生の学業継続を支援する。
- 4) 教科外活動、課外活動などを通して、学生間の交流を図る。
- 5) 早めの就職指導を行い、卒業生の就職率を高める。
- 6) 卒後3年間の臨床経験を通して実践力を身につけることができる卒後教育が充実した病院への就職を斡旋する。

III. 国家試験対策の強化

1. 国家試験全員合格に向けての対策の強化を図る。

- 1) 昨年度の国家試験対策の評価を行いながら、国家試験対策の強化を図り、全員合格を目指す。
- 2) 各学年の学生の傾向を分析しながら、教育方法を工夫し、学生の基礎学力の向上を図る。

IV. 入学生確保について

1. 入学生の確保を強化する。

- 1) 広報委員会を中心とした計画的運営により、広報活動を積極的に行う。
ホームページ、ブログ、リスティング等、WEB上の広報活動の充実を図る。
パンフレット、配布資料、広告、募集活動の工夫を行う。
- 2) 各科の特徴を生かした募集活動を、WEBを含めて戦略的に行う。
看護学科: 指定校推薦校の見直し、募集活動の早期化、範囲拡大(地域、大学など)
進路指導教員へのアプローチ、入試の定着、募集活動の範囲・学校訪問
数の拡大、複数回の訪問
助産学科: 卒業生、在校生勤務地を活用した募集活動
全国区への募集、関連施設(関東含めて)へのアプローチ
PT・OT: 奨学金制度の充実、進路指導院へのアプローチ、複数回の学校訪問、
充実したオープンキャンパスの開催
OTの職業認知を徹底的に高める活動を実戦

V. 管理体制の強化

1. 専門学校においては「職業実践専門課程」の継続的な認定を目指す。

- 1) 企業等との連携を図り、「教育課程編成委員会」を参考にカリキュラムの改善を行う。
- 2) 「学校関係者評価」を実施し、教育における教育内容・教育方法を充実する。
 - (1) 授業・演習・実習指導等についての授業評価を計画・実施して、自己の指導の指針とする。
 - (2) 学校関係者評価の結果について外部公表を行い、各校改善を行う。

2. 教職員の目標管理を活用し、教職員の必要となる能力の向上に努める。

- 1) 教職員の適正人数の配置を行う。
(教職員の人員配置、実習指導教員の強化、図書司書の配置)
 - (1) 目標管理を行うことで、教職員自身の役割を明確にし、主体的な判断や行動ができるようにする。
 - (2) 教職員をサポートする研修体制の充実を図る。
 - ① 関連学校における中央研修への積極的な参加
 - ② 各専門領域での専門性を向上するための研修の支援体制の整備

3. 円滑な学校運営を行う。

- 1) ワークライフバランスを考慮した業務内容の見直し、業務改善を行う。
 - (1) 学科ごとに業務内容のマニュアル化を進めていく。
 - (2) 会議運営について、組織的・効果的な実施を図る。
 - (3) 業務改善を行い、残業時間を短縮する。
- 2) 情報機器の活用により、業務の効率化、情報の共有化を図るとともに、情報セキュリティ対策を強化する。

5. 設置する学校・学科等

大学

令和5年4月1日現在

学校名	開校年月	学 部	学 科	修業年限	入学定員	総定員数
令和健康科学大学	令和4年4月	看護学部	看護学科	4年	80名	320名
		リハビリテーション学部	理学療法学科	4年	80名	320名
			作業療法学科	4年	60名	240名

専修学校

学校名	開校年月	学 科		修業年限	入学定員	総定員数
福岡看護専門学校	平成2年4月	看護学科	3年課程 全日制	3年	—	50名
		※令和4年度以降学生募集中止				
		看護学科	2年課程 夜間定時制	3年	—	—
※令和3年度以降学生募集中止						
看護学科	2年課程 通信制	2年	—	—		
※令和3年度以降学生募集中止						
小倉リハビリテーション学院	平成16年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	80名	240名
		理学療法学科	夜間コース	4年	40名	160名
		作業療法学科	昼間コース	3年	40名	120名
下関看護リハビリテーション学校	平成16年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	80名	240名
		看護学科	3年課程 全日制	3年	40名	120名
八千代リハビリテーション学院	平成16年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	120名	360名
		理学療法学科	夜間コース	4年	40名	160名
		作業療法学科	昼間コース	3年	80名	240名
福岡和白リハビリテーション学院	平成19年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	—	80名
		※令和4年度以降学生募集中止				
		理学療法学科	夜間コース	4年	—	40名
※令和3年度以降学生募集中止						
作業療法学科	昼間コース	3年	—	40名		
※令和4年度以降学生募集中止						
福岡水巻看護助産学校	平成20年4月	看護学科	3年課程 全日制	3年	80名	240名
		助産学科	1年課程 全日制	1年	16名	16名
武雄看護リハビリテーション学校	平成23年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	40名	120名
		看護学科	3年課程 全日制	3年	40名	120名

助産院

施設名	開設年月	部屋数	備 考
みずまき助産院 ひだまりの家	平成22年9月	6床	・H22.9～H23.3まで出張助産にて運営

6. 各校の事業計画書

学校法人巨樹の会では、2022年度を初年度とする2027年までの6年間の第1期として「教育」「研究」「地域連携・社会貢献」「組織運営」「施設設備」「財務基盤」の6つの項目について、中期計画を立案している。法人としての方針及び推進事業を設定し、建学の精神及び教育理念に基づき、各学校の単年度の事業計画と連動させることにより、確実に計画を推進していく。

- ・ 令和健康科学大学
- ・ 福岡看護専門学校
- ・ 小倉リハビリテーション学院
- ・ 下関看護リハビリテーション学校
- ・ 八千代リハビリテーション学院
- ・ 福岡和白リハビリテーション学院
- ・ 福岡水巻看護助産学校
- ・ 武雄看護リハビリテーション学校



令和健康科学大学事業計画(令和5年度)

— 日本の医療を変える大学を作る —

1. 教育

設置計画に照らして、特色あるカリキュラムを円滑に実行するとともに、ICTを活用した教育内容、方法の充実を図り、教育の国際化に向けて準備する。

また、学生生活の充実に留意し、学生が自主的、自律的な活動を行うよう助言指導する。さらに、学生の健康管理に配慮する。

2. 研究

個々の教員の研究を発展させるとともに、共同研究を推進する。

3. 地域連携・社会貢献

地域社会との連携活動を推進する。また、他の教育機関との連携を図る。

4. 組織運営

学長のリーダーシップのもと、各種委員会等において、大学に関する諸課題に取り組む。また、大学院設置構想の実現を推進する。

5. 施設整備

大学の施設設備の点検を不断に行い、教育研究環境を維持ならびに改善する。

6. 財務基盤

広報活動を積極的に実施して、本学への入学志願者を増加させる。また、経費の効率化に努める。



学習者一人ひとりに目を向けた教育の推進
～豊かな人間性、責任感のある看護専門職の育成を目指して～

1. 実践力の向上

- 1) 教育機材の充実を図り、社会に貢献できる実践能力を身につけた有能な人材育成。
 - (1) 臨地における気付きの意識化と援助後のリフレクションの強化
 - (2) シミュレーターの活用、教育方法の工夫
 - (3) 技術教育の強化
 - (4) 教育力向上に向けた教員研修の積極的な受講

2. 学生満足度向上の実現

- 1) 学生満足度の向上のための環境調整
- 2) 自ら学び探求していく教育方法の工夫

3. ICTを活用した教育の推進

- 1) ICTを活用した授業・実習指導の工夫
- 2) 効果的なWi-Fiの活用

4. 全員卒業に向けた取り組みの実施

- 1) 国家試験合格率100%実現に向けての取り組み強化
- 2) 主体的学習の支援、学習方法の確立、効果的なグループ活動
- 3) 臨地実習での学びの実感とタイムリーな指導
- 4) 確実な単位修得への支援
- 5) カウンセリングの効果的な活用、学生個々とのかかわり

5. 経費削減

- 1) 前年度も実施した経費の見直しを継続して実施

6. 職員力の向上

- 1) 個人目標の設定と評価
- 2) 教育目標の設定と評価
- 3) コミュニケーション能力とリサーチ力を駆使した組織づくり

7. 閉校に向けての確実な大学への引継ぎ

- 1) 学籍簿等の書類整理や保管
- 2) 備品等の整理・廃棄、管理体制を大学へ移行
- 3) 管理者(学校長)への最終的な確認と報告



地域から信頼される学校作り

1. 学校教育力の向上

- 1) 確かな学力の育成
- 2) 授業の質の向上
- 3) ICT教育の推進
- 4) 教員の資質能力の向上に向けた研修会等の実施

2. 社会の要請に応える研究を推進し、高度な実践能力を有する専門職者の養成

- 1) 医療の発展に貢献する研究の推進
- 2) 専門職としての高度かつ最新の知識・技能の修得

3. 地域貢献・社会貢献

- 1) 地域の中学・高校との交流及び部活動支援
- 2) 学校の教育資源・設備を活用した地域との交流促進
- 3) ボランティア活動の推進

4. 組織運営システムの体制強化について

- 1) 意識統一のための会議の定例化
- 2) 業務分担の明文化

5. 教育環境の整備

- 1) 教育上の必要性に対応する施設・設備の整備
- 2) 感染症、自然災害に対する対策

6. 安定した財務基盤の維持

- 1) 定員充足に向けた取り組み
- 2) 費用対効果の観点から経費の削減を図る
- 3) 業務効率化に向けた取り組み

信頼され、選ばれる学校

学生の学力強化とICT教育、多職種連携教育(IPE)の強化
～ ひとりひとりを大切にしながら ～

1. 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進
 - 1) 両学科協力IPEの充実
 - 2) シミュレーション教育の充実
2. 学生満足度向上に向けた取り組み
 - 1) 教員の教育力向上
 - 2) 教育教材の充実
 - 3) 進路(就職)支援の強化(理学療法学科)
 - 4) 学校および学生寮の施設・設備の改善
3. 研究
 - 1) 教育関連の研究および関連病院と連携した研究の促進
4. ICT環境の運用
 - 1) ICT環境・設備の改善
 - 2) ICT教育力の向上
5. 退学者抑制の取組み(進級率・卒業率90%以上の実現)
 - 1) 学生の情報共有と問題の確認と問題に応じた早期対応
 - 2) カウンセリングの活用とカウンセラーとの連携
 - 3) 保護者との連携
 - 4) 学習支援強化
6. 国家試験合格率100%実現に向けた取り組み
 - 1) 学年に応じた学習指導
 - 2) 教員の指導力強化
 - 3) 自己学習力の強化
7. 定員充足の取組み
 - 1) インターネット、SNS等による情報発信の強化
 - 2) 高校・大学訪問の強化、ガイダンスへの積極的参加
 - 3) 高専連携の強化(部活支援活動、キャリア教育協力)
8. 地域連携の充実に向けた社会貢献の推進
 - 1) 地域ボランティア活動参加への促しと表彰
 - 2) 各学年清掃活動の継続
9. 業務効率化の促進
 - 1) 業務効率改善に向けた職員の意識の改善
 - 2) 学内業務の見直しと適切な業務分担
 - 3) 効率化に伴う設備の充実

～増員後の新しい生活様式に則する環境整備と職業実践教育の推進～

入学定員の増員に伴い、教育教材の充実・環境整備・感染症対策に配慮した教育体制の構築・運用と更なる職業実践教育を推進する。

1. 教育機材・管理備品の購入

- ・ 入学定員増員に係る追加補充
- ・ B棟(既存棟)の映像設備の入替え
- ・ 不備品買替え

2. 環境の整備

- ・ 感染症対策の環境整備継続(来校者の把握・検温など徹底)
- ・ 手指消毒・手洗い・マスクの励行
- ・ 集金サービス(口座引き落とし)での学費納入に向けた準備
- ・ 排水洗浄等の実施

3. 学外での学習機会の確保、整備

- ・ 学外学習やボランティア活動の感染対策を徹底した継続実施
- ・ 増員に対応できる臨床実習施設登録拡充

4. ICT教育の推進

- ・ タブレットを効果的に活用すべく、学内での充電許可等の見直し
- ・ 遠隔授業を緊急時などでも速やかに実施できる態勢整備
- ・ デジタルサイネージシステムを活用した学生への情報周知のシステム確立

5. 効果的な広報活動

- ・ R5年度入学生へタブレット・ペンシル贈呈を継続、ICT教育・遠隔授業に対応
- ・ 総合的なSEO対策としてホームページの内部構造見直し、コンテンツ記事制作
- ・ 動画を活用したWEB展開やオンラインオープンキャンパスの活用
- ・ オープンキャンパスでのデジタルサイネージシステム活用
- ・ ガイダンスへの積極的な参加と高等学校との更なる連携
- ・ リスティング、リターゲティング、位置情報広告、YouTube広告などWEB広告を年間を通して効率的に配信

有終の美を飾る
～学生の記憶に残る学校であり続ける～

1. 新規事業

なし

2. 継続事業

1) 教育

- ・全員卒業、全員国家試験合格を目指す
- ・止むを得ず卒業できない学生、国家試験不合格となった学生の為のフォロー体制を整える

2) 閉校作業

- ・手続きの完遂
- ・施設、設備、教材の引継ぎ 等
- ・卒業生への事務対応(証明書発行 等)



学校法人巨樹の会

福岡水巻看護助産学校

地域に貢献できる人材育成

1. 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進
 - 1) シミュレーション教育の充実
 - 2) 看護教員の教育実践力向上
2. 学生満足度向上に向けた取り組み
 - 1) 学習環境の整備
 - 2) 教育教材の充実
 - 3) 学生との援助的関係の確立
3. ICT環境の運用
 - 1) 共同学習としてのICT教育の推進
 - 2) ICT教育力の向上
4. 進級率・卒業率向上への取り組み
 - 1) 職業的アイデンティティの確立
 - 2) 学生個々に応じた学習支援
 - 3) 保護者との連携
5. 国家試験合格率100%に向けた取り組み
 - 1) 1年次からの積み上げとなるカリキュラムの構築
 - 2) 修学指導への取り組みの強化
6. 定員充足への取り組み
 - 1) 広報委員会を活性化し、教職員全員で年間を通じた広報活動の強化
7. 地域連携の充実に向けた社会貢献の推進
 - 1) 地域清掃の継続
 - 2) 地域主催のイベント参加への推進
 - 3) 地域のイベント及びボランティア活動への参加
8. 業務効率化の促進
 - 1) 職場環境の整備
 - 2) 業務内容に応じた勤務形態の多様化
9. 就職支援・キャリア支援
 - 1) 就職先選択の考え方や将来ビジョンを考えるための体制作り
10. 学校設備・建物の整備
 - 1) 老朽化した施設の整備



全校一丸となりブランド化を図り、魅力ある信頼される学校創りに邁進する

～全てにパーフェクトを目指して、活力と活気ある学校に～

I.重点施策事業

1)医療人としての人間性・人間力の育成

- ①基本的な生活習慣の確立と自主的な学習活動の在り方及びICT教育の定着促進
- ②学生を前面に出していく教育活動の展開(自主性・コミュニケーション能力の育成)
- ③社会活動への積極的な参加や学科・学年間連携による情意教育の実施

2)進路保障100%達成

- ①履歴書の添削と小論文指導・面接指導の充実
- ②関連病院との就職に向けた連携強化と訪問見学、就職説明会の実施と早期の取り組み

3)国家試験全員合格

- ①1年次より学習指導体制の構築と学習習慣の確立
- ②学生の能力に応じた早期からの個別指導対応
- ③教員間での問題作成や指導の在り方の検討と研修会の実施

4)退学・休学者をなくす

- ①定着率100%達成のために、担任・副担任の連携と個別面接・カウンセリングの実施
- ②ホームページやメール機能も活用した保護者との連携強化と学校活動状況の配信と連絡体制

5)教職員の資質向上

- ①教育方針の達成のために、共通理解への学校長講話と朝礼や会議の効果的な在り方
- ②教育力向上のための各種研修会、講習会の実施と受講への積極的取組み
- ③専任教員の強みを生かした魅力的な講義実施と教育システムなどの教員間評価の活用
- ④専任教員による国家試験対策と就職支援指導力の養成と強化

6)魅力ある指導実践(ICT活用等)

- ①ICT環境のより効果的な活用(電子書籍やアプリ教材の導入)
- ②図書室の書籍購入と演習の充実を図るための教材購入
- ③学校の特徴を生かした職種間連携の推進

7)高校との信頼構築で定数確保(少子化対策)

- ①学校単独のガイダンスの開催と高校部活動への援助と支援や在校生からの近況報告
- ②高専連携・地域密着型の広報活動の充実
- ③ブログやSNSを活用した学校情報の迅速な配信
- ④受験業者とマスメディアを適切に利用した高校への情報提供

8)地域、行政と連携したボランティア活動

- ①特別支援学校や病院行事とスポーツ活動や老人クラブへの参加での地域貢献
- ②市町村や社協との連携によるボランティア活動推進

9)教育費等の削減と業務の効率化

- ①教育機材や補助教材の適切な購入
- ②消耗品や光熱水費の節約への取組み(ペーパーレスの推進)
- ③感染対策設備と用具の購入での防止対策
- ④県の補助事業を活用した学校予算への反映
- ⑤ICT活用を踏まえた環境整備(情報処理室、学生コピー機、電子カルテなど)

10)学校環境整備

- ①通学困難者の増大に伴い、学生寮(男子・女子)確保の実現と駐車場の整備
- ②災害にそなえた職員・学生への危機管理体制強化と連絡体制の徹底
- ③老朽化や自然災害に伴う施設の整備

11)開校15周年に向けての準備作業(整備)

- ①式典準備作業の計画とこれまでの成果の整理と毎年更新



巨樹の会

～医療系学科だけの学校法人～